

競 技 注 意 事 項

1 規 則

- (1) 競技は、2025年度日本陸上競技連盟規則、及び本大会要項、申し合わせ事項による。
- (2) 競技に使用するシューズについても WA シューズリスト承認であることを推奨する。

2 練 習

- (1) 競技場内で行うが、競技に支障のないよう、バックストレート及び外側を使用する。
- (2) 室内の雨天走路での練習は行わない。
- (3) 投擲（砲丸投）の練習はピットで役員の指示で行う。また、投擲物の持ち込みは一切行わない。

3 競 技 場

- (1) 本競技場は全天候型である。
- (2) 使用できるスパイクの長さは、走高跳12mmまで、他は9mmまでとする。ニードルピンの使用は認めない。

4 招 集

- (1) 招集場所は、北マラソングート外側雨天走路入口に設置する。招集に遅れたものは棄権とみなし出場を認めない。
- (2) 招集時刻は下記のとおり。

種 目	時 刻
トラック競技	競技開始30分前開始 競技開始15分前完了
フィールド競技	競技開始45分前開始 競技開始30分前完了

- (3) 上記の時刻までに競技者本人（代理人は認めない）が競技者係から点呼及びアスリートビブスの確認等を受ける。その後は競技者係の指示に従う。
- (4) リレーの招集に関しては、スタート地点で確認を受けてから、各走者の出走場所へと移動する。

5 アスリートビブス

- (1) 胸と背の四隅に安全ピン等を利用してとめる。
- (2) トラック競技では各自用意した腰ナンバーを右腰に折れ曲がらないよう四隅を確実に止めること。
- (3) 腰ナンバーは各自で準備し、アスリートビブスの番号と同じにすること。
- (4) 走高跳、走幅跳は、胸または背のみでよい。

6 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

(走高跳)

	練習	1	2	3	4	5	6	7
中男	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45
中女	1m00	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35
一般男	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80
一般女	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55

	8	9	10	11	12	
中男	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	以後3cm刻みとする
中女	1m40	1m45	1m48	1m51	1m54	以後3cm刻みとする
一般男	以降は選手と確認する。					
一般女	以降は選手と確認する。					

(棒高跳)

	練習	1	2	3	4	5	6	7
一般男	2m72	3m02	3m22	3m42	3m62	3m82	4m02	以降は選手と相談
一般女	2m32	2m42	2m62	2m82	3m02	3m22	3m42	以降は選手と相談

7 リレー競技

- (1) 出場するチームは、リレーオーダー用紙を1部作成し、招集完了60分前までに、記録室に提出すること。尚、オーダー用紙は記録室にて配布する。
- (2) チームの出場者は、デザイン、配色が同一であれば選手によりユニフォームのタイプを選択することとは問題ないとする。また、異なるメーカーのユニフォームを着用することも問題ないとする。

8 記録の発表

北マラソングート外側室内走路入口へ掲示する。アナウンスは速報と好記録のみとする。

9 競技使用のシューズに関して

本競技会は、競技者が日本陸上競技連盟競技規則TR 5. 2に適合したWAシューズリストで承認されている市販のシューズを 競技に使用していることを前提としているので、参加者全員のシューズチェック（検査）は実施しない。

【シューズに関する主要規則の確認】

- *靴底厚さは、フィールド種目と800m未満は20mm以内、800m以上の種目は25mm 以内。
- *靴底は、11本以内のスパイクを取り付けられる構造。
- *11個までの任意のスパイクを使用することができ、その取り付け位置は11ヶ所を超えない。
- *スパイクの長さは、9mm以下（走高跳は12mm以下）、その長さの1/2が4mm 四方の定規に適合するように作られたもの。
- *購入した状態で使用することが前提で、インナーソールの変更等靴底厚さが変わるカスタマイズはWAの事前承認を得たもの。

原則として、WAリスト承認外（または靴底厚さ測定値が規定外）シューズの場合、競走・試技を認められません。競技前・中に審判員が疑義を抱いた競技用靴に対し、競技後に審判長の権限で検査をすることがあります。シューズ規則（TR 5. 2）規定外のシューズを使用し競走・試技した場合、指導・失格（参考記録として連絡）扱いとします。

10 フィールド競技について

- （1）走幅跳、砲丸投は3回の試技とする。記録上位8名がトップ8へ進出し、さらに3回の試技を認める。

11 そ の 他

- （1）競技中に発生した怪我等については、応急処置を主催者で行うが、以降の責任は負わない。
- （2）更衣室は更衣のみに使用し、更衣後は荷物等全て持って退室する。
- （3）各自の出したごみは、自宅に持ち帰ること。
- （4）グラウンドに入れるのは競技者、競技役員のみとする。保護者はメインスタンド、引率者は陣地及びメインスタンドを原則とする。
- （5）ホームストレート側の記録室前及び本部テント前は通行を控え、立ち止まらないこと。
- （6）主催者側から借りたアスリートビブスは必ず記録室へ返却する。
- （7）プログラム訂正は12：00までに記録室で手続きを済ませること。
- （8）役員の打合わせは12：15から本部前とする。
- （9）手洗い等の感染症対策は各自で適切に行うこと。